



# 2019年3月期 第1四半期（2018年4月～6月） 決算説明資料



**株式会社MCJ**

2018年8月3日

# 2019年3月期第1四半期 連結損益計算書

前年同期比で引き続き売上高拡大の継続に加え、利益も大幅増益  
四半期業績として過去最高の営業利益を更新

(百万円)	2018年3月期 第1四半期		2019年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	28,395	100.0%	<b>32,489</b>	<b>100.0%</b>	4,094	14.4%
売上原価	21,908	77.2%	<b>24,898</b>	<b>76.6%</b>	2,990	13.7%
売上総利益	6,487	22.8%	<b>7,590</b>	<b>23.4%</b>	1,103	17.0%
販売費 及び一般管理費	4,494	15.8%	<b>4,974</b>	<b>15.3%</b>	479	10.7%
営業利益	1,993	7.0%	<b>2,616</b>	<b>8.1%</b>	623	31.3%
経常利益	2,036	7.2%	<b>2,542</b>	<b>7.8%</b>	506	24.9%
税金等調整前 当期純利益	2,037	7.2%	<b>2,543</b>	<b>7.8%</b>	506	24.9%
親会社株主に帰属す る当期純利益	1,389	4.9%	<b>1,774</b>	<b>5.5%</b>	385	27.7%

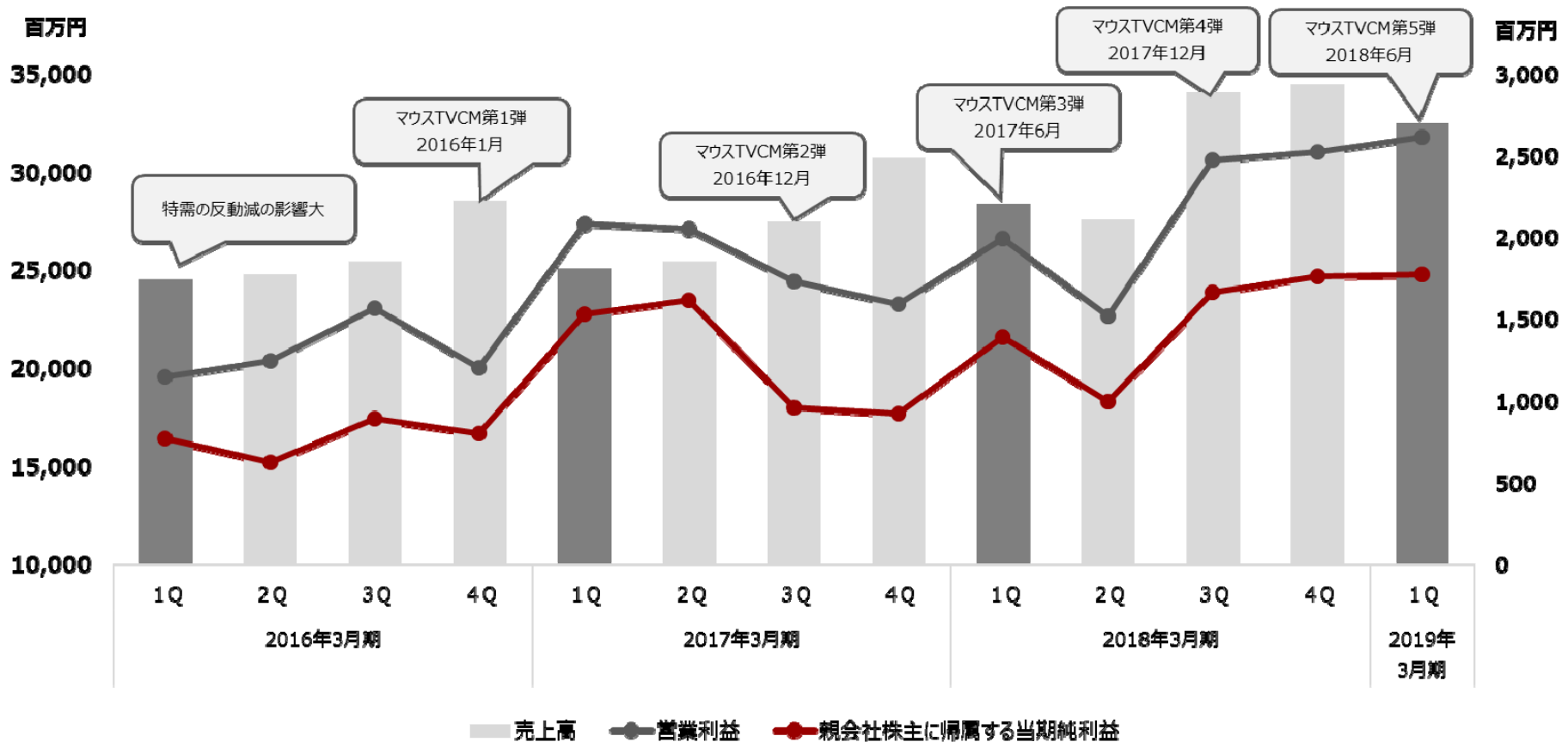
# 2019年3月期 第2四半期連結業績計画に対する達成率

第2四半期連結業績計画に対し、売上高・各利益において計画比順調に進捗

(百万円)	第2四半期連結業績計画に対する達成率		
	2019年3月期 第1四半期 実績	2019年3月期 第2四半期累計 計画	達成率
売上高	<b>32,489</b>	62,000	52.4%
営業利益	<b>2,616</b>	4,250	61.6%
経常利益	<b>2,542</b>	4,200	60.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>1,774</b>	2,750	64.5%

# 連結業績推移

売上高は前年同期比を大きく上回り、第1四半期としての過去最高売上高を更新  
引き続き積極投入した広告宣伝費を吸収し、営業利益は四半期としての過去最高益を更新



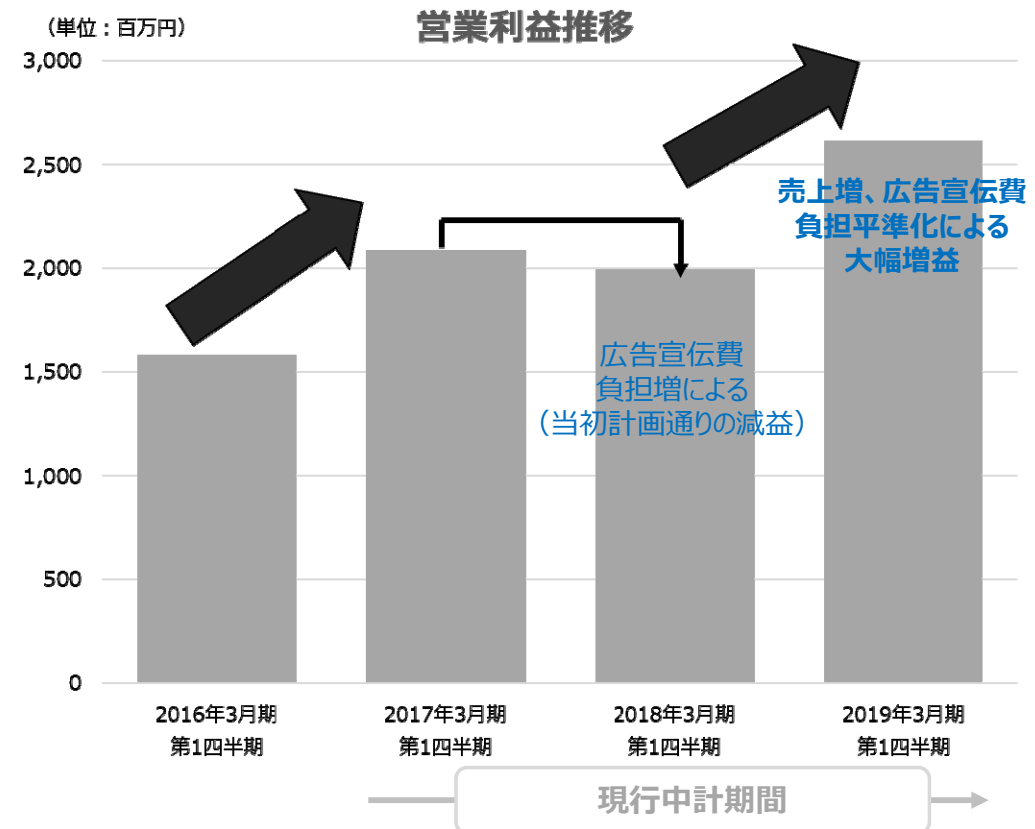
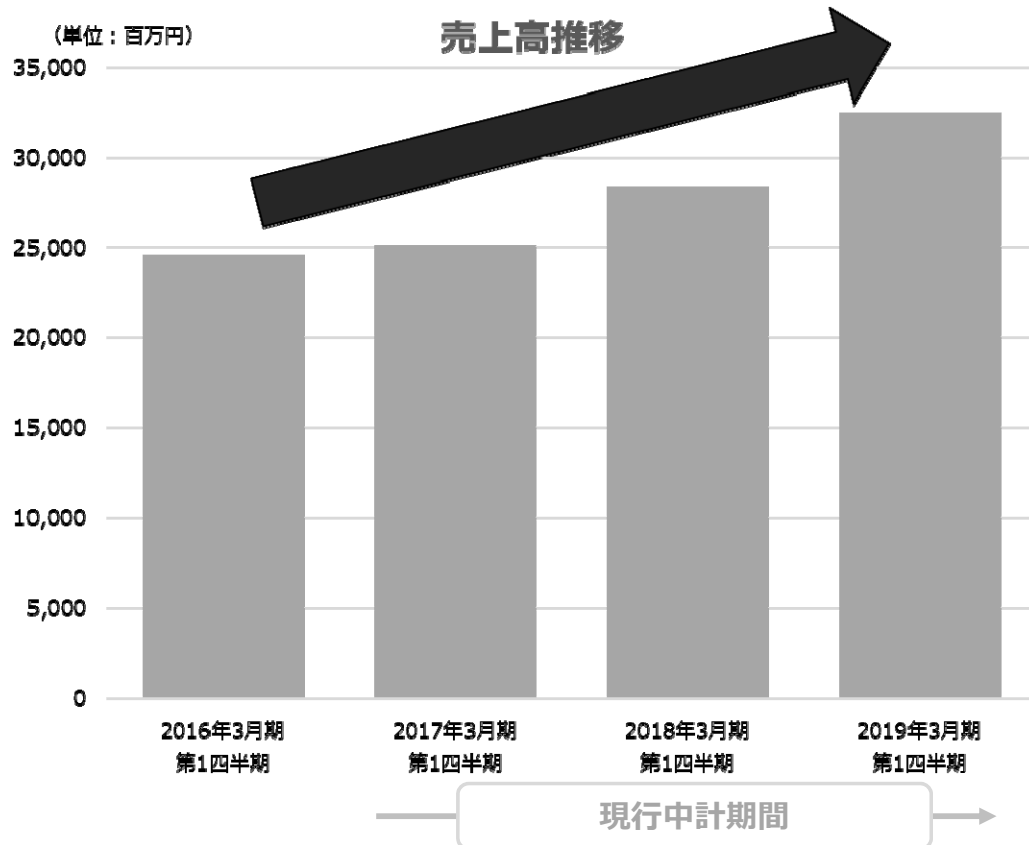
(百万円)	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	24,544	24,766	25,429	28,547	25,109	25,431	27,493	30,693	28,395	27,568	34,086	34,493	32,489
営業利益	1,150	1,245	1,567	1,204	2,084	2,056	1,733	1,589	1,993	1,518	2,472	2,520	2,616

# 連結業績推移グラフ

売上高は順調に拡大し、前年比成長率は更に加速  
営業利益も高水準の広告宣伝費にも関わらず四半期ベースでの過去最高益を更新

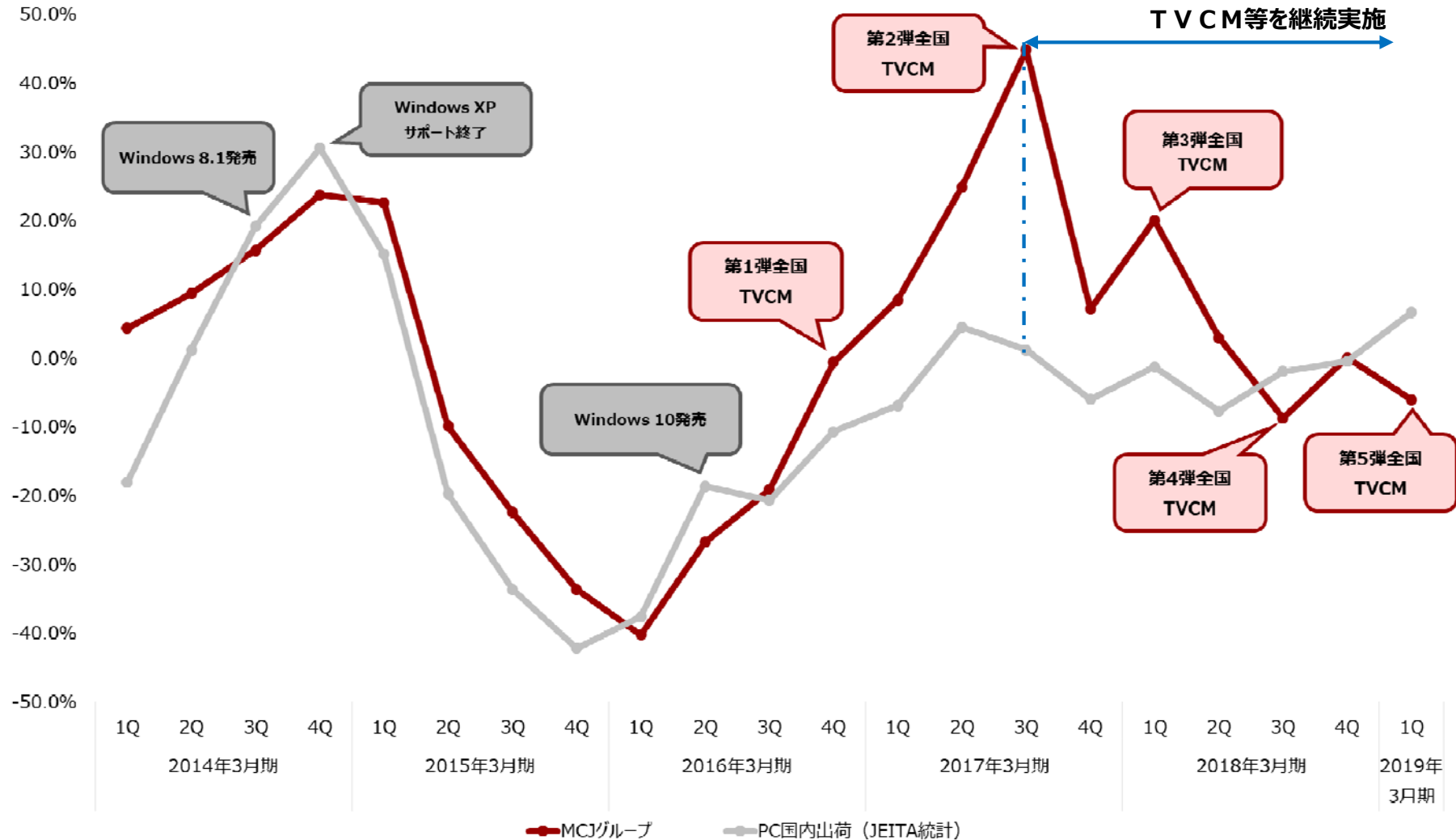
売上高は中計発表後第1四半期として  
前年同期比3期連続増収を達成

営業利益は第1四半期として全国テレビCM等  
大規模広告宣伝を実施した2018年3月期は減益も  
費用発生が平準化した進行期は大幅増益



# パソコン出荷台数増減率の推移

当社グループにおける出荷台数は  
継続的な価格政策の調整により前年同期比で減少



※上記グラフは、四半期（会計期間）ごとの出荷実績を前年同期と比較したものです。

## ロ パソコン関連事業

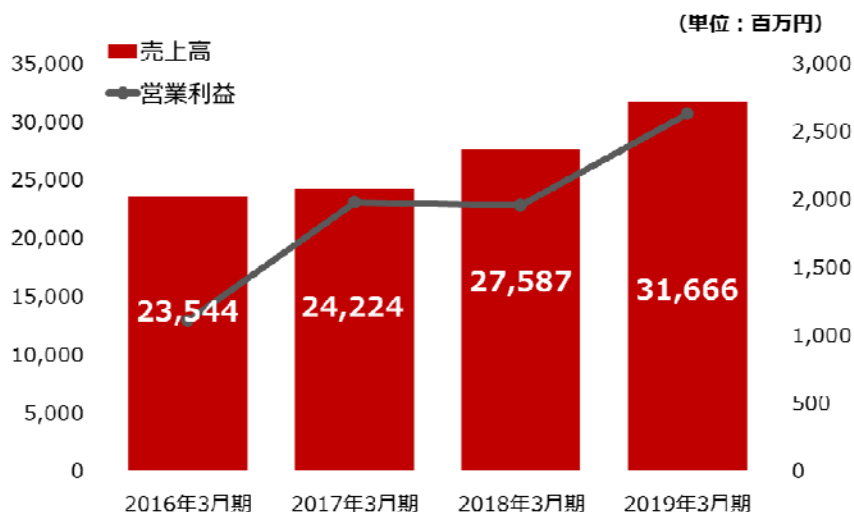
### ➤ 売上高 316億円（前年同期比14.8%増）

- 認知度向上策及びブランド力の向上が寄与し、ハイスペックPC、法人向けPCを中心に好調を継続
- 欧州におけるモニタ販売も好調を維持し、大幅増収に寄与
- 主要全子会社において前年同四半期比でプラスに推移
- 当四半期よりR-Logicの業績もP/Lに寄与開始

✓ 以上の結果、対前年同期比14.8%増という大幅成長を達成

### ➤ 営業利益 26億円（同34.4%増）

- 第5弾の全国TVCM等の広告宣伝を実施するも、費用を吸収して計画、前年同期比共に上振れて着地



パソコン関連事業 (百万円)	2018年3月期 第1四半期		2019年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	27,587	97.2%	31,666	97.5%	4,078	14.8%
営業利益	1,954	98.1%	2,626	100.4%	671	34.4%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

# 当第1四半期における主なトピックス

成長分野への着実な進出、ブランド力向上を活かした新たな領域への進出  
 → 中計に沿った将来の収益拡大基盤構築に向けた先行的アクション

## 新たな取り込み

- チームラボ、森ビルによるデジタルアートミュージアムへの製品提供

team Lab★ MORI Building DIGITAL ART MUSEUM  
 EPSON teamLab★Borderless



- ユニットコム、eスポーツ大会定期開催



## 新製品・取扱ハードウェア種類拡充

- AI開発・ディープラーニング専用PC



- iPhone修理サービス開始





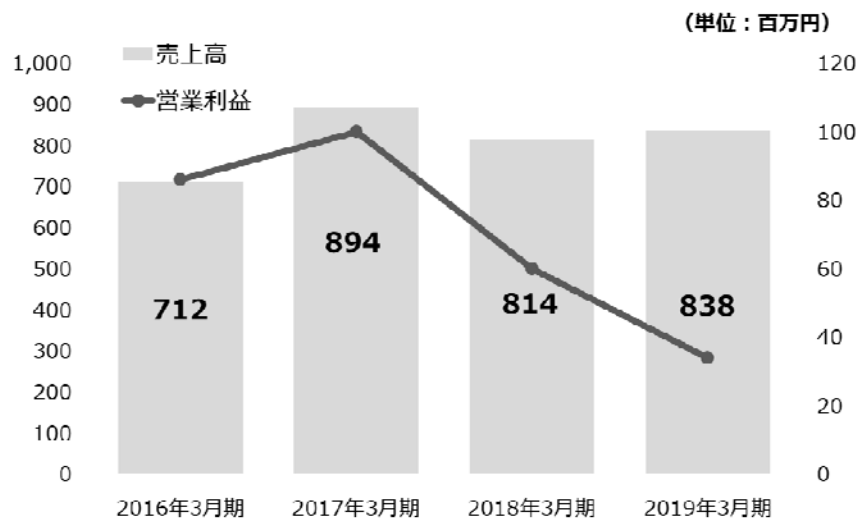
## □ 総合エンターテインメント事業

### ➤ 売上高 8億円（前年同期比3.0%増）

- 不採算店舗の閉鎖により前年同期比で店舗数減
- 一部店舗は好調の一方で、既存店全体では継続的に苦戦
- 前期第2四半期に開業したアパホテルの売上計上により売上高は純増

### ➤ 営業利益 0.3億円（同42.7%減）

- 一部店舗の改装費用により前年同四半期比で大幅減



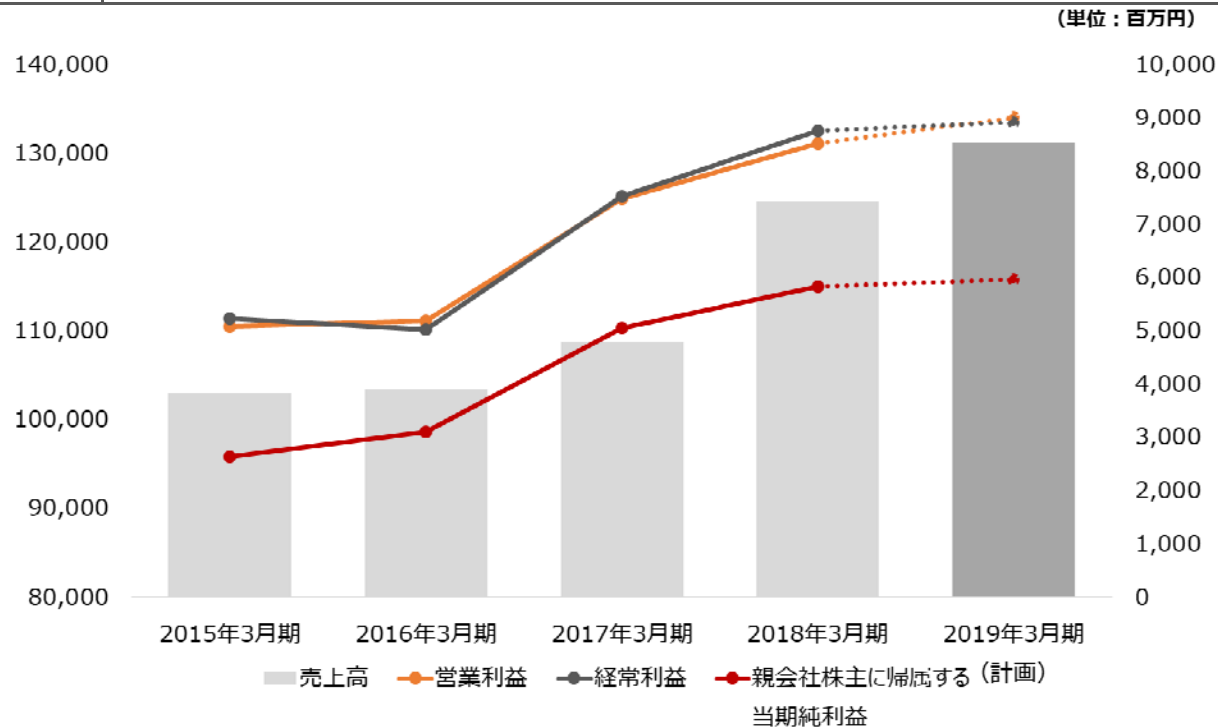
総合エンターテインメント事業 (百万円)	2018年3月期 第1四半期		2019年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	814	2.9%	838	2.6%	24	3.0%
営業利益	60	3.0%	34	1.3%	△25	△42.7%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

# 通期連結業績計画

3期連続で過去最高売上高・最高益を達成する計画設定  
 期初発表の計画より現時点においては修正なし

(百万円)	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 (計画)
売上高	102,889	103,288	108,727	124,544	<b>131,100</b>
営業利益	5,068	5,167	7,463	8,504	<b>9,000</b>
経常利益	5,217	5,014	7,503	8,743	<b>8,900</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,627	3,087	5,030	5,811	<b>5,950</b>



# 株主還元 配当金について

現時点における配当性向予想は前期同等の30.0%

	実績			予想
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
年間1株当たり 配当金 (※ご参考)	<b>13円00銭</b> (6円50銭)	<b>26円00銭</b> (13円00銭)	<b>36円00銭</b> (18円00銭)	<b>18円36銭</b>
配当性向	<b>20.5%</b>	<b>25.1%</b>	<b>30.1%</b>	<b>30.0%</b>

※ご参考 2018年7月1日を効力発生日として1株につき2株の株式分割を行っており、実績配当金のカッコ内は、株式分割後に換算した配当金額です。

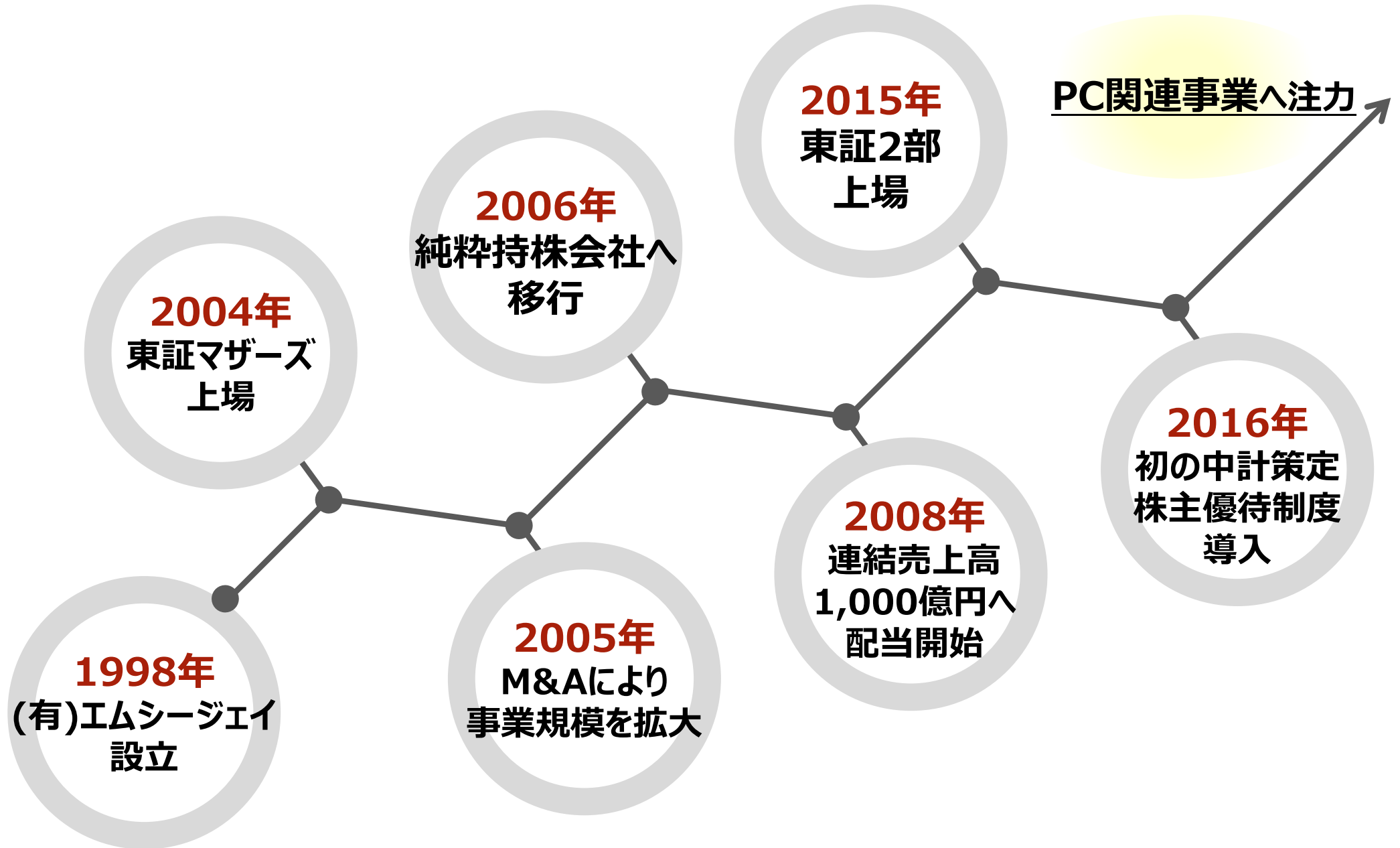
□ 1株当たりの期末配当金額は18円36銭と予想

- 2019年3月期業績計画における親会社に帰属する当期純利益は59.5億円
- 予想配当性向は30.0%
- 以上の結果、1株当たりの期末配当金額は**18円36銭**を予想

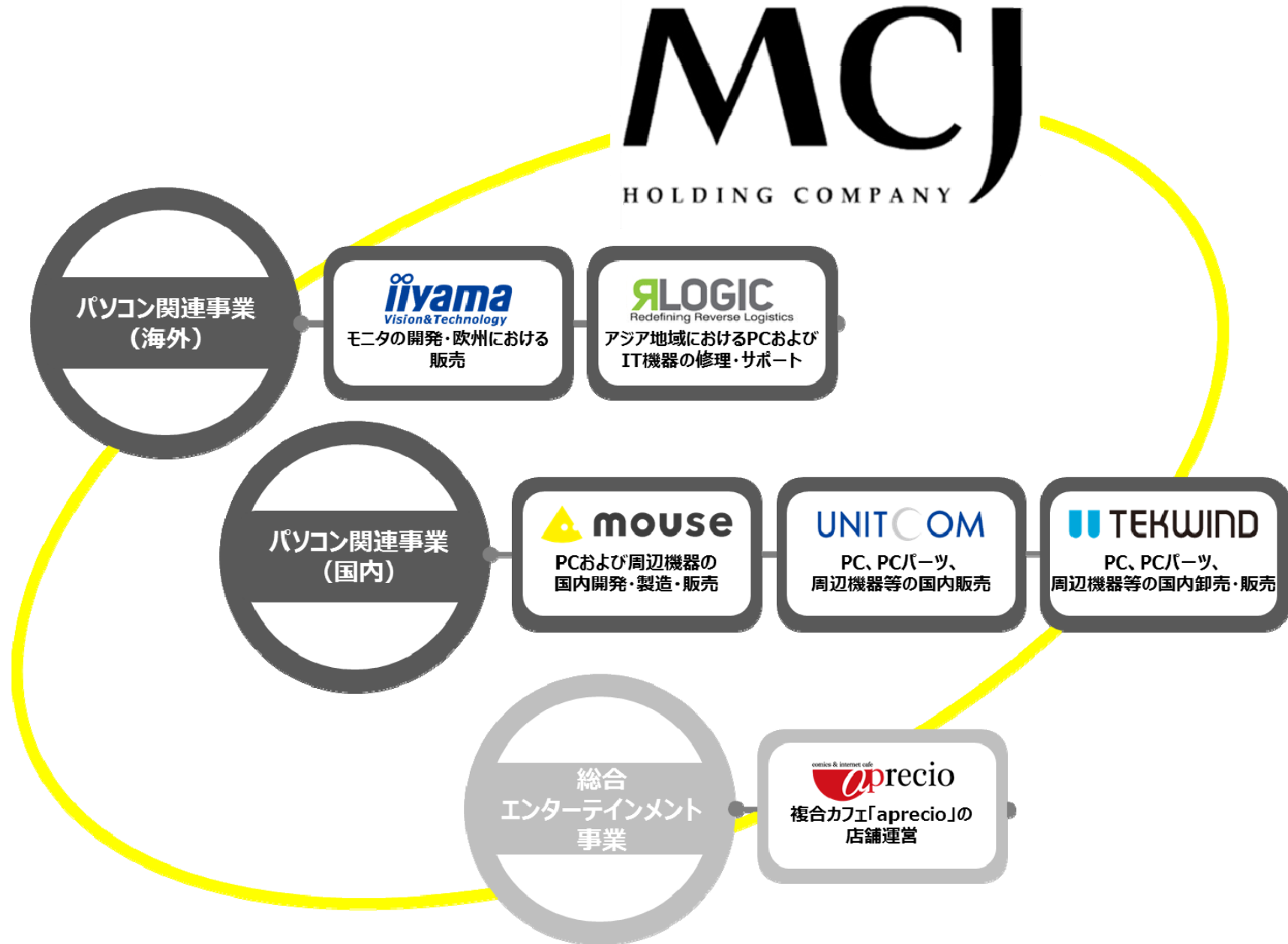
# Appendix

- 商号** : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)
- 設立** : 1998年8月
- 代表者** : 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
- 資本金** : 3,854,491,300円
- 従業員数 (連結)** : 2,088名 (2018年6月末)
- 発行済株式数** : 50,870,600株 (2018年6月末)
- 証券コード** : 6670 (東京証券取引所第2部上場)

# 主な沿革



# MCJグループ 主要子会社紹介



# 経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

**取扱製品（ハード）**  
の拡充

**コンテンツ・サービス分野**  
への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

# 情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

# ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

中計上の方向性/目標

- PC、スマホ、タブレット以外の取扱ハードウェア拡充
- ウェアラブル、VR、AR、ドローン、IoT...
- ハードウェアからのイノベーションを継続推進

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
- コンシューマー向けコンテンツ、法人向けソフトウェア...
- サービスからのイノベーションを取込む

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- 優良ベンチャー企業との連携
- 自社バリューチェーンを活用した新VB投資方針

- 優良ベンチャー企業との連携・出資
- M&Aによる事業ドメインの拡大
- 新たなM&A方針の策定



# 中長期ビジョン実現に向けたM&A・アライアンス方針【中計資料より再掲】

- ビジョン実現の為に、以下の方針にてM&A・アライアンス戦略を推進する
  - 既存事業強化を軸としつつ、将来の種まきを過度なリスクを取らない範囲で実施

M&A・事業アライアンスに係る大方針	方針	M&Aの目的等
既存事業関連① Value Chain強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 既存の開発、仕入、販売、保守等の既存Value Chain機能の強化を狙う</li> <li>» グループに無い機能、弱い機能の補完を目的とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 各グループ会社の擁するValue Chain機能の拡充ニーズに基づく</li> <li>» 今後の事業拡大の為にオペレーション上の基盤再強化を目的とする</li> </ul>
既存事業関連② 製品・顧客軸強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 取り扱い製品、販売先顧客軸での既存事業の強化を狙う</li> <li>» 新たな製品群、業界を含む顧客層の開拓を目的とする（但しデバイスに限らない例：ソフト等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» 各グループ会社の足元の営業ニーズ、営業戦略に合致した個別テーマを設定</li> <li>» “入り口”たる取り扱いデバイス拡充に伴う商流の強化を目的とする</li> </ul>
新規事業関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>» ITデバイスによらない、既存事業の枠外の投資</li> <li>» ソフトウェア、セキュリティー、コンテンツ等。領域は限定せずも、特定領域に過度にベットはせず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>» デバイスを活用する事業への進出によりデバイス事業との相乗効果を狙う</li> <li>» 将来の事業の柱の一つとなりうる事業の探求を目的とする</li> </ul>

# 中期経営計画進捗【2018年3月期決算説明会資料より再掲】

## 足元の収益性及び資本効率を高める×高まった収益を将来の成長分野へ投資

### ✓ P/L施策

- 各グループ会社の収益構造改革
- 売上高成長率\*：20.6%
- 営業利益成長率\*：64.6%

\*2016年3月期対比2018年3月期実績

### ✓ B/S施策

- 株主還元の強化
- 選択と集中による資本効率向上
- ROIC及びROEを重点管理KPIとして明示

### ✓ 中長期の仕掛け

- 中計方針に基づく戦略展開
- 積極的な広告宣伝
- 東南アジアへの進出
- ベンチャー企業投資

	2016年3月期実績	2017年3月期実績	2018年3月期実績	
売上	103,288百万円	108,727百万円	124,544百万円	2期連続で過去最高売上高・各利益を達成
営業利益	5,167百万円	7,463百万円	8,504百万円	
営業利益率	5.0%	6.9%	6.8%	収益性と資本効率の向上により積極的な株主還元を実施
ROIC	11.6%	17.4%	17.5%	
ROE	13.0%	19.1%	18.6%	
配当性向	20.5%	25.1%	30.1%	

# 免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与える主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

## < IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ  
経営企画室 広報IR担当

TEL : 03-6739-3991  
HP : [www.mcj.jp/](http://www.mcj.jp/)

**MCJ**  
HOLDING COMPANY